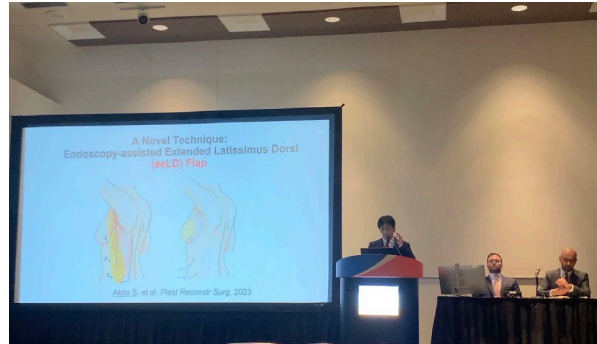


Plastic Surgery The Meeting 2023 in Austin 報告

千葉大学医学部形成外科 秋田新介

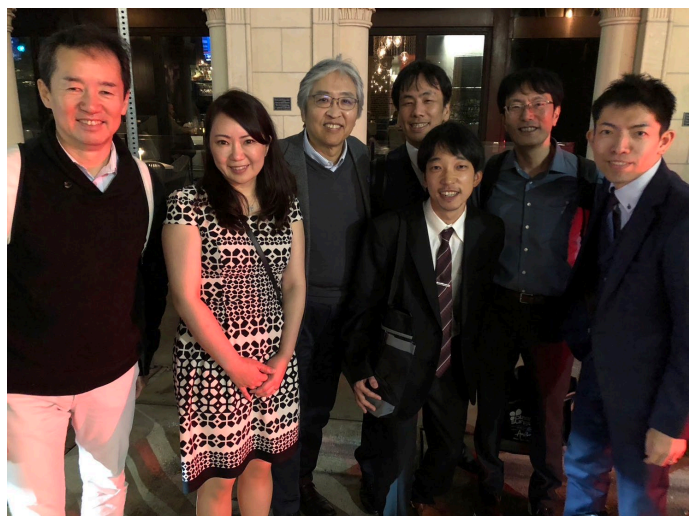
PSTM 2023 においては、我々の施設で考案した Endoscopy-assisted Extended Latissimus Dorsi Flap を用いた乳房再建の術式の詳細を Breast のセッションで口頭発表し、この術式を適用した患者の主観的満足度評価について、E-poster で報告しました。発表後の座長らとの Discussion でもう一度我々の術式のストロングポイントを強調しましたので、是非我々の方法の有用性を、米国を含めた多くの国の形成外科医に実際に検証していただき、術式の普及や次の進化につながればと願っております。また我々自身にとっては、米国の形成外科医に意見をいただくチャンスは、研究成果を Plastic and Reconstructive Surgery に投稿することを見据えるにあたっては、非常に貴重なものであると考えています。



発表風景

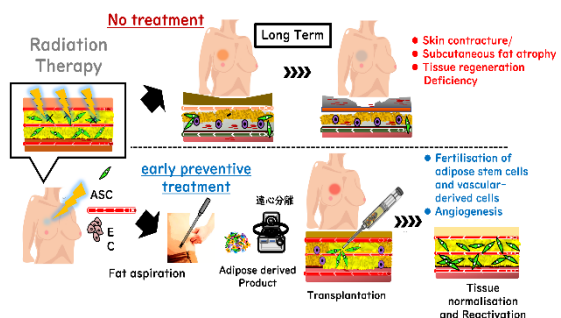
PSTM は多くの国の先生から発表があるものの、米国形成外科学会の国内学会であるため、現在、米国で何が注目されているかが、学会のトピックに色濃く反映されています。今回の学会では近年の傾向通り、Breast がセッションのテーマとして最も多く、次いで Aesthetic が多かったことは、時世を大きく反映していました。また、Robotic surgery のような本邦の形成外科ではまだこれからの分野や、Lipedema(脂肪浮腫)のような本邦よりも米国の方が患者数が多い分野についてもエキスパートが集まり、最前線のところを学ぶことができました。最前線がわかるということは、まだ誰も行っていないところがどこかということを知ることにもつながり、非常に重要な学びを得ることができました。

国外の大きな学会へ参加させていただくことの魅力の一つに、普段は臨床や研究に大変お忙しくされており、日本国内の学術集会ではオフィシャルな役割でスケジュールが埋まってしまう本邦の各大学の先生方と、リラックスしたひとときの時間を共有させていただくことができることにもあります。巨大なテキサスのステーキにも、大勢であれば太刀打ち可能でした。ご一緒させていただきました先生方、誠にありがとうございました。



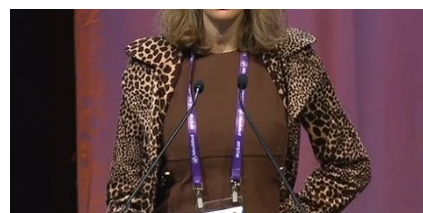
ステーキ屋さんの前にて（左から順に 貴志和生先生 田中里佳先生 橋本一郎先生 秋田新介 松岡祐貴先生 坂本道治先生 前田拓先生）

PSTM2023(In Austin)でEポスター発表の機会を頂いた。放射線皮膚障害に対する脂肪組織から精製した脂肪組織由来プロダクト(脂肪幹細胞、脂肪破碎組織 micronized cellular adipose matrix: MCAM、脂肪組織)移植の予防効果に関する発表であった。これまで自治医科大学 形成外科教室では発症後の放射線皮膚障害に対する脂肪由来治療プロダクト効能を指摘してきたが、もう一步踏み込んで予防剤として活用できる可能性を検討した。40Gy・4 分割照射の放射線皮膚障害マウスモデルを作成し、照射直後にこれらのプロダクトを障害部に予防的に注入した。結果として、予防的注入群では急性組織損傷の症状は回避され、6 か月後に人工的に皮膚潰瘍を作成してもビヒクル群に比較して有意に早い創傷治癒が得られることが示された。さらに、真皮の肥厚、脂肪組織の萎縮や線維化を抑制することも明らかとなった。即ち、慢性放射線障害を予防する防護剤としてこれらのプロダクトの新しい活用法が提案できると考えたため世界に発信した。



今回は残念ながら家庭内事情で現地参加できなかった。しかし、On Line Registration から On Demand Video を通して学会の雰囲気を知ることができた。現地でリアルな空気に触れることや、交流を深めることはできなかったが、自宅でリラックスしながらルームウェアで視聴するのもたまには良いと思えた。

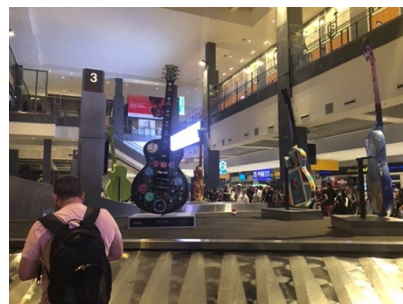
ここで一つ、初日に行われた「Tips and Tricks of Expert Fat Grafting In Breast Reconstruction」というタイトルのセッションが個人的に興味深かったので少し紹介する。まず冒頭で脂肪注入術の過去、現在が語られた。このような脂肪移植の歴史を語る場面では必ず吉村教授の名前が登場することには誇らしい気持ちになる。私もいつかはこのような歴史に名を連ねるような仕事をしてみたいものである。しばらくしてヒョウ柄のジャケットを着た演者が出てきた。アメリカにも大坂のような地域があるのだろうか。このなんともいえない違和感に溢れたアメリカの常識観に触れる時、いつもなら現地で行き場のない不安感を覚えているところだが、自宅だといつになく客観的に冷静に見れた。しかしこのコロンビア形成外科センターの Sarah mess 先生の着眼点はそれとは裏腹に実に鋭かった。乳房再建をカタボリックとアナボリック体質という視点から切り込んで独自の見解を解説したのである。一方でカンザス医科大学の Meredith Collins はわれわれが行っている HB 再建について少し触れた。比較的新しい概念であった HB 再建も世界でそろそろ動き出していることが分かり、これを日本で実践している我々も自験例のアウトカムをまとめていく時期が来たと感じた。また臨床で使用しやすい MCAM の話題もちょくちょく登場し、これに興味を掻き立てられた。今後も脂肪組織由来プロダクトの乳房再建応用はさらに過熱していくことだろう。



PSTM2023 参加体験記

北海道大学 大学院医学研究院 形成外科学教室 前田拓

今回、日本形成外科学会国際委員会を通じて PSTM2023 で発表する機会をいただき、10月26日から3日間アメリカのオースティンに行ってきました。今年4月にクリーブランドで開催された PSRC2023 への参加に引き続き今年度2回目の渡米となりました。クリーブランドに比べると街の雰囲気の違い、またハロウィーンの時期ということもあり、学生が多く全米の都市の中でも平均年齢が若いというだけあり活気あふれる街でした。



オースティン・バーグストロム国際空港

仕事の都合上 26 日から 29 日の全 4 日間の内 26 日から 28 日まで参加しました。主に Reconstructive track を中心に勉強しようと思って望みましたが、初日の 'Workhorse of Showhorse? Traditional & Alternative flaps in Reconstruction' などでは演者の好み前面に出た上で、新しい皮弁の話もあり、再建外科医のこだわりを感じることができました。一方で日本国内の学会と比較しても確かに症例数は多いのですが、決してレベルが違うというわけではないとも感じました。ただし、アメリカでは若手のみならず学生もデータをまとめてどんどん発表しているという現実を目の当たりにして教育システムの違いに愕然としました。もちろんアメリカの学生は日本の学生よりも年齢は上になりますが、若いうちから大きな研究を任せられ(義務なのかもしれませんが)、それを形にするという重要な過程が学生や若手のうちからしっかりと教育され、それが当たり前になっているのでしょう。



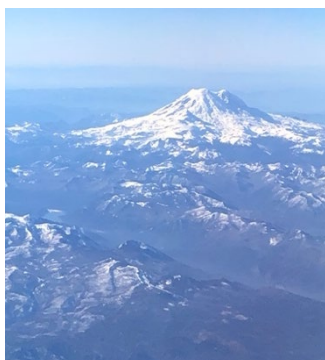
さて、自分は今回 Scientific abstract presentations: Global partners1 というセッションでの発表でしたが、様々な国からの発表があり、面白い経験ができました。いずれにしても、どの演者も英語での発表に慣れており、改めて英語での発表・議論の重要性を認識しました。もちろん言語の壁はありますが、そもそも共通言語で同じ土台に立たねば議論して知識を深めることはできません。そのトレーニングは必須と言えらると思います。理解できなかったらはっきりとわからないということを英語で言えることが大事だと思います。日本人は英語のテストの点は高いと思うのですが、いざ話すとなると遠慮がちになる人が多いと感じます。でも話さなければ伝わりません。たとえ間違っても話さないよりは遥かに良いと思います。話さなかったら相手にとっては何を考えているのかが全く分からないということになります。もし考えていることがあるのに相手にそれが伝わらない時ほど悔しいことはありません。改めて英語

の重要性を認識しました。

勉強以外にも充実した時間を過ごすことができました。
PSTM2023 参加前から順天堂大学の田中先生、千葉大学の秋田先生方にお声がけいただき、一緒に食事をしましょうとのことで学会初日の26日に田中先生に予約をしていただいた Perry's Steakhouse & Grille へお肉を食べに行きました。そのお肉のおいしかったこと！徳島大学の橋本先生、慶應大学の貴志先生、京都大学の坂本先生、田中先生、秋田先生、関西医科大学の松岡先生、忘れられない楽しいひと時をありがとうございました！また27日には自由な感じの Welcome reception があり、その後、大阪公立大学の出口先生と慶應大学の鈴木先生と街に繰り出しハロウィーンで仮装している人たちに混ざってバーで熱い！？話で盛り上がりました。



左から、鈴木悠史先生、前田、出口綾香先生



最近国際学会も Web で参加でき十分に勉強できる環境が整っていると言えますが、現地参加することでしかできない体験もあります。普段お忙しい先生方と一緒に食事をして話をさせていただく機会というのはとても貴重でした。是非来年も参加したいと思います。

← 帰りの飛行機からみたロッキー山脈。雄大な自然美に圧倒されました。

米国形成外科学会(ASPS)年次学術集会(PSTM2023)に参加して

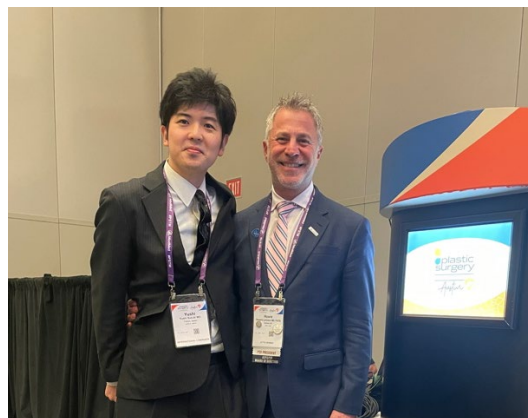
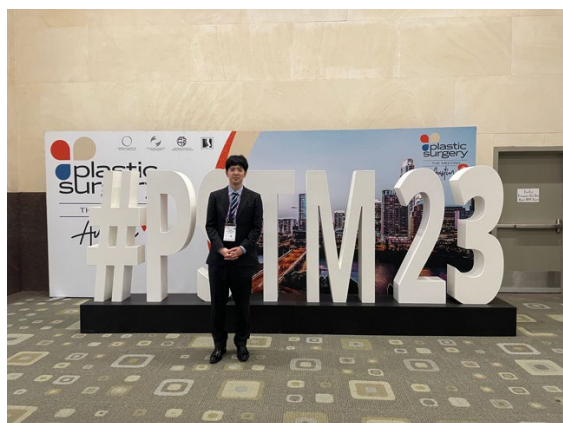
慶應義塾大学医学部形成外科 鈴木悠史

今回オースティンにて行われた、アメリカ形成外科学会に参加いたしました。きっかけは 4 月ごろに日本形成外科学会からメールでいただいた、演題募集です。幸いなことに E-poster に採択していただき、演題を提出することができました。E-poster ですので、現地での発表があったわけではないのですが、せっかく採択していただいたので、学会で現地の様子を見にいきたいと感じ渡米いたしました。

私が現地参加した一番の目的は Plastic Surgery Innovation Challenge を拝聴することでした。President of the Plastic Surgery Foundation の Howard Levinson 先生が 4 月の形成外科総会にいらしてお話しした際に情報をいただき、私も応募させていただきました。残念ながら私は決勝には残れませんでした、どのような Innovation が発表されるのか非常にワクワクとしながら聞いていました。実際に臨床でのニーズに応えるために、工夫にあふれたアイデアがあり、またそれが実際に公開されて行く過程の課題解決手法なども非常に勉強になりました。Competition 形式の演題で非常に面白く、日本でもこのような機会ができると盛り上がるかもしれないと夢見ながらの参加でした。

4 日間のみの参加ではありますが、やはり現地参加の国際学会はやはり非常に刺激的でした。アメリカだけでなく世界各国から多くの医師が参加しており、多くの医師と交流をすることができました。もちろん、日本から参加した先生方も多くいらっしゃり、普段国内の学会ではお話しする機会がない方々とも食事に行ったりする機会に恵まれました。

実は PSTM 自体は 2019 年のサンディエゴでも参加させていただきましたが、この時も日本形成外科学会が MOU により演題募集をされた枠で採択され、現地発表の機会を得ることができました。国際学会に行くきっかけにもなると思いますので、是非来年以降もチャンスがあれば応募をさせていただきたいです。是非日本形成外科学会の会員の先生方と国際学会でお会いできますこと楽しみにしています。



Innovation Challenge Session 後 Howard Levinson 先生と写真を撮影していただきました。

PSTM23 in Austin に参加して

東京女子医科大学形成外科 本間健人

今回 JSPRS の MOU 枠で e-Poster で私の陥没乳頭の演題を採択頂き、PSTM(Plastic Surgery The Meeting)23 in Austin に参加させていただく機会がありましたので、報告させていただきます。

私自身にとって今回は2回目のPTSMの現地参加となりました。私は2021年から2023年までテキサス大学へ研究留学しており、留学中に一度PSTM22 in Bostonへ参加した事がありました。しかしその時は演題を出していなかったため、ただ学会に参加しただけとなっていました。初めてPSTMに参加した時はその規模の大きさに圧倒され、これぞアメリカ、凄いなあという衝撃を覚えました。その時からいつかは自分も演題登録して、採択されてみたいと思うようになりました。今回父親と共同で陥没乳頭のネタが出来たので、これを発表するべく演題登録をしました。もともとは一般枠で応募してましたが、JSPRSのMOU枠の事を知り、こちらの方が採択される可能性が高いかもしれないと思い、PSTMの一般枠の応募を辞退し、JSPRSのMOU枠での挑戦に切り替え、無事に演題が採択されました。

今回は7日間大学病院勤務をお休みさせていただき、日本から現地参加してきましたが、やはりなんと言っても時差ボケが辛かったというのが、正直な感想でした。日本とテキサスの時差は-14時間ですから、まさに昼夜逆転となります。現地に着いてすぐにメラトニンを購入し、眠前に内服を始めましたが、初日や2日目くらいの日中の眠気は強烈でした。しかももちろん発表は全て英語なので、少しでも気を抜くとすぐに寝落ちしてしまいます。PSTM23



は177のLive sessionと38のOn-demand presentation, 90のGlobal Parter e-Posterで構成され、240社の企業展示がありました。現地参加者は世界中から3400人、Virtualでの参加が500人だったそうで、今回のPSTM23はPSTM22に次いで最も盛況なPSTMとなったようです。アフリカからの参加者も多く、ケニアから来ていた先生が拡大鏡を嬉しそうに購入していたのが印象的でした。

個人的には指の再接着、女性化乳房、Robot surgery、化膿性汗腺のセッションなどが勉強になり興味深かったです。またSocial Mediaやキャリアプランなどのセッションが豊富でこれらも非常に参考になりました。また日本では見た事のないKerecisという魚の皮から作られた新しい人工真皮の企業展示も非常に面白いなと感じました。2日目の夜にWelcome Receptionがあり、企業展示の人達やアメリカの形成外科医と意気投合し、Austinの夜を楽しみました。彼らとはInstagramのアカウントを交換し、またいつかPSTMで再会したいと思っています。

最後になりますが、今回PSTM23への演題を採択していただきましたJSPRSの選考委員の先生方、また7日間の休みを与えていただいた櫻井教授、医局員の皆様に改めて感謝申し上げます。また機会があれば、演題登録して、次はOralでの発表が出来たらと思います。

